

# VIEW

## 休暇中の社員の安否は無視！

## 管理者の都合のいいように捻じ曲げるな！！

会社は、11月29日12時に各職場で「安否確認の訓練」を行いました。その内容は、メールアドレスを登録した社員は12時にメールの送受信で確認し、未登録者は、17時30分までに会社に電話等で安否を知らせることになっています。連絡がない場合は、18時以降に会社から自宅に連絡を取り、確認を行うというものです。大交両所でも、この内容で掲示を行っており、当日出勤した社員は口頭で確認を行いました。しかし、当日、年休のA社員は所用で18時までに連絡が出来なかったため会社からの電話を待っていましたが、当日の電話は有りませんでした。関西支社は、「17時30分以降に自宅に電話をする」それでも留守などでつながらなかったら「翌日の10時以降に電話をする」としています。

A社員は、翌日、管理者に「安否のこと」と尋ねましたが、その場で確認をしなかったのです。ところが、終了点呼前に管理者に呼ばれて事情聴取が行われ、その場で「安否確認の電話を何故しなかったのか」を聞かれ、A社員が「掲示にも書かれているように18時以降は会社から安否確認を行うことになっている」と言うと、「それは違う」と否定されました。

そもそも今回の「安否確認の訓練」では、災害が発生すればその時に連絡できない社員もいます。そのことを前提に、会社から連絡をすることも訓練に含まれているはずですが、他の車両所では休日の社員には会社から連絡を行い安否の確認を行っています。大交両では、訓練とはいえ休日で連絡が来ない社員に連絡を取ろうともせず見捨てたのです。会社が自ら施行し行った安否確認の訓練を怠ったのです。そして、その責任を誤魔化すために事情聴取を行い社員に責任転嫁を行ってきたのです。

会社にとっての「安否確認」とは、本人、家族の安否はいつでも良いのです。社員自らが出勤できるかどうかを会社へ連絡し、業務に支障が出ないように対応するための「訓練」でしかないのです。そして、会社が決めて施行した「安否確認」を、大交両管理者は内容を勝手に変えて社員の安否確認を行わなかったことは職務を果たしていません。自ら決めたことも守らない。自らの責任を社員に転嫁するそんな管理者がいる職場は暗く良い職場にはなり得ません。「明るくさわやかで活力のある職場の樹立」を目指してみんなで声を上げていきましょう。